

小山田の里山環境活用の拠点づくりに関する ワークショップ



町田市地域活動
サポートオフィス

第1回ワークショップ





第1回ワークショップ

01 町田市里山環境活用保全計画とワークショップの目的

まちだの里山の将来像「**住む人も 訪れる人も 居心地のよい まちだの里山**」実現のために多様な主体の連携・協働により里山環境の活用を図り、時代に即した新しい循環の構築を目指す。

ワークショップの目的

小山田エリアのリーディングプロジェクトの1つ「**里山を身近に体感する場の整備**」の実現に向けて「**小山田エリアの里山環境を活用するための拠点**」について、どのような場所で、どのような役割や機能を持った施設があるとよいか」考えることを目的として実施。



第1回ワークショップ

02 グループワーク：考えよう！小山田地域の里山環境活用拠点「あったらいいなを考える」

<特徴・魅力・課題>

空気がきれい／ホテルがある／自然が豊かだが、一方で荒れた山林も増えている／交通の便が悪いのは課題だが、だからこそ豊かな自然が残っている／無人販売が多いのは魅力。裏をかえすとお店が少ない／歩く人が増えたのは良いがマナーが悪い人もいる／自然環境に関する先進的な活動がある／来訪者のためのレストランやトイレがない

<あったらいいな>

情報発信や交流のための施設／カフェや農家レストラン／レンタサイクルウォーキングのためのマップなどの情報発信基地／市民農園／農産物直売所
昔からの自然とのお付き合いのしかたなどを受けつぐことができるプログラム
小山田エリア全体でのおまつりやアートなどのイベント／売店・コンビニ

第2回ワークショップ

第2回ワークショップ

01 フィールドワーク

町田市バイオエネルギーセンター (MBEC)

↓ バス移動

東谷戸入口

↓ 徒歩

東谷戸

↓ バス

忠生630号線 (大善倶楽部周辺)

↓ 徒歩

おこしの森 (小山田小学校北側山林)

↓ 徒歩

野中谷戸

↓ 徒歩

小山田バス停

↓ バス

MBEC

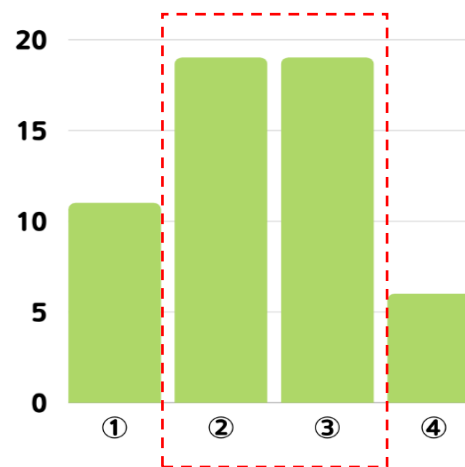


第2回 小山田の里山環境活用の拠点づくりに関するワークショップ フィールドワーク感想アンケート集計（概要版）

1 魅力だと感じたこと（抜粋）

- 都心から近くにある里山
- 景観が綺麗
- 自然を生かしてアスレチックなどが作れる
- 山道、水（鶴見川の源流）、材木、木工
- 手つかずの土地
- 森林、自然、田畑、山
- 整備されていない道を通ることも1つの里山の魅力
- おこしの森、忠生630号線沿線
- 人の手が入りすぎていない自然
- 自然体験
- いろんなアイデアを活かせる

2 「魅力」を活かすための拠点は、どのような場所にあるとよいか



- ① 既に活動が行われている場所、またはその付近（11件）
- ② **地域の方が日常的に（徒歩や自転車などで）アクセスしやすい場所（19件）**
- ③ **エリア外の人でもアクセスしやすい場所（車でも来やすい場所）（19件）**
- ④ ①から③以外の場所（6件）
（物理的な空間を想定しなくてもよい、平地、車・自転車でアクセスしやすい、野中谷戸の奥、自転車周回コース）

第3回ワークショップ





第3回ワークショップ

01 市内外の実事例

●小野路宿里山交流館館長 山崎凱史氏

運営の中心となる人は覚悟が大事。お金もしっかり稼ぐ。覚悟をもってやると地元の人にも参画してくれる。

●株式会社 飛騨の森でクマは踊る（通称「ヒダクマ」） 井上彩氏

森を活かしてカタチにする、森で穫れた恵みを提供する・コミュニティを育む、森と人の接点・関係をつくる



第3回ワークショップ

02 グループワーク「拠点施設に必要な機能について」

施設に必要な機能（テーマ）

- ① 飲食や休憩、交流ができる
- ② 情報を発信し地域をつなぐ
- ③ 里山を楽しむ（木工体験や農業体験、環境学習に必要な機能。例：工房）
- ④ 物品の販売や商品の開発などを行う

※第3回ワークショップの記録は、別紙「資料1 第3回ワークショップ記録」参照